

外来生物調査プロジェクトProject A報告

コブハクチョウの浮かぶ池はどこ？

近所の公園の池にハクチョウは浮いていませんか？

関西の池に野生のハクチョウが来ることは稀で、来るとしても冬の話。もし暖かい季節にハクチョウが浮いていたら、それは人が放した、あるいは放鳥個体の子孫であるコブハクチョウです（図1）。くちばしの付け根の上側に黒いコブがあるのが、その名前の由来です。

長居公園の大池には、2008年春にコブハクチョウが放されてしまいました。羽根を切られた雄が2羽なので、他所へ飛んで行ったり、繁殖して増えたりしないのは安心です。しかし、池にハクチョウを浮かべたいという安易が発想が、日本本来の自然の光景でないことが判っていないのが問題でしょう。

日本各地でこのように安易にコブハクチョウが放され、他所へ飛んで行ったり、繁殖をしたりしています。在来生態系への影響が懸念されますが、なぜかコブハクチョウの生息状況はあまり調べられていません。放し飼いなのか野生化しているのかの判断が難しいからというのもあるかもしれません。



図1：昆陽池（兵庫県伊丹市）のコブハクチョウ。2008年1月6日撮影。

そこで、Project A鳥班では、このコブハクチョウの分布調査をします。もしどこかでコブハクチョウを見かけたら、確認日、確認場所、個体数、雛や巣の有無、(判れば) 飛べるかどうか、給餌の有無を和田 (wadat@mus-nh.city.osaka.jp) までお知らせ下さい。大阪府を中心に関西一円の情報を集めますが、日本中どこからでも情報を頂ければ歓迎します。

<和田 岳：博物館学芸員>